

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価計画

学校評価表作成について変更した点は朱書きしています

達成度(評価)
 A:十分達成できている
 B:おおむね達成できている
 C:やや不十分である
 D:不十分である

学校名	唐津市立浜玉中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中で行事や学習活動に制限が入る一年であったが、生徒や保護者からは概ね学校の教育活動に対して評価をいただけており、評価項目は概ね達成できている。 いじめ問題への対応については未然の防止のために指導を重ねている。保護者との連携をさらに深め、早い段階でのいじめの認知、認知に努める。 コロナ禍において、昨年度に引き続き小中連携の実践がほぼできていない。来年度は学力向上を中心に据えた小中連携に力を入れていきたい。 業務改善・教職員の働き方改革については、少しずつ改善が進んでいるとはいえ、時間外勤務は依然として長い傾向にあり、今後一層の推進を図る必要がある。
2 学校教育目標	持続可能な社会の創り手となる生徒の育成 《めざす生徒像》 豊かな心で、未来を切り拓く生徒
3 本年度の重点目標	1 学力の定着と資質・能力の育成(唐津市学力向上指定校) 2 心の教育(人権教育)の充実 3 いじめの早期発見・早期対応 4 キャリア教育の推進 5 地域とともにある学校づくり(いきいき学ぶからつ子事業)

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価		主な担当者		
(1)共通評価項目				進捗度(評価)	進捗状況と見直し	達成度(評価)	実施結果		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組						評価	意見や提言
●学力の向上	●全教職員による共通理解と共通実践	●「唐津の学び」チェックシートの個人評価において、すべての項目の自己評価平均値を3.5以上	●全教職員で「唐津の学び」チェックシートを共有する。 ●全教職員で、単元ごとの「ラーニングマウンテン」を作成し情報を共有する。日頃から、授業参観を行い、生徒の頑張っている姿をFormsに入力し様々な視点から学びに向かう姿勢も共有する。 ●SDGsを意識した教育課程を編成し適切に実施する。							
	○教職員の指導力向上	○授業の内容が理解できているという生徒の割合を80%以上とする。 ○県学習状況調査結果の対県平均比を1.00以上	●単元の始めに「ラーニングマウンテン」を提示して、単元を通して身に付けたい力を生徒に示す。 ●授業の「めあて」を明示し、『振り返り』の場を設定することで、意欲的に学習に取り組む生徒を育成する。 ●新しい学習指導要領のねらいを具現化する教育活動及び学習評価を実施する。							
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生70%以上	●人権集会・平和集会や道徳に関するアンケートの実施。 ●道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施。 ●部活動や学校行事を通して、達成感や成就感を味わわせ、「感動」と「感謝」の心があふれる生徒を育成する。							
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対応等)について組織的対応ができていないと回答した教職員90%以上	●生徒観察をはじめ、計画的に生活アンケートや教育相談、QUTSを実施することで生徒の状況を把握し、未然防止・早期発見に努める。 ●いじめが発覚した場合は、早急に対策委員会を立ち上げ、保護者・関係機関と連携しながら解決を図る。							
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「学校生活は充実している」について肯定的な回答を80%以上にする。 ●「将来の夢を持ち、その実現に向けて努力している」について肯定的な回答を80%以上にする。	●個々が抱える不安や悩み、問題などに適切に対応し、保護者の思いに寄り添い適切に支援するように努める。 ●職場体験や教育講演会等を通して、将来について考える機会を設ける。							
	○浜玉中三訓の徹底	○自らあいさつができる生徒の割合を80%以上にする。	●生徒会活動で、生徒に自ら啓発を行わせることで、意識の高揚を図る。 ●生徒会を主体に毎朝あいさつ運動に取り組む。							
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①運動習慣の改善や定着化 ②「正しい生活習慣の形成」 ③「正しい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」	◎全校生徒の朝食喫食率を90%以上にする。また、給食の残食をなくす。	●生活アンケートを実施し、朝食喫食率を把握し、給食日より等で保護者へ向けても情報を提供し、意識高揚と改善を図る。 ●生徒会保健部と連携を図り、残食チェックや給食指導の徹底を行う。							
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意) 全国体力検査における体力合計点を全国平均値を目指す。	●教員を対象とした講習会や研修会への参加。 ●生徒の自発的な部活動に取り組み、外部コーチを活用するなど合理的・効率的に運営する。							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	●部活動複数顧問制を効果的に活用する。 ●部活動終了1時間後に退勤する。 ●会議日は「ノー残業DAY(定時退勤日)」とする。							
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意) 時間外勤務を1月60時間以内、年360時間以内にする。 年次休暇の取得を10日以上取得した職員の割合を70%以上	●時間外勤務月平均60時間以下を達成できる教職員の割合を50%以上にする。							
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見直し	達成度(評価)	実施結果		評価	意見や提言
○特別支援教育	○個々の生徒に応じたきめ細かい対応	○個々の生徒に応じた適切な支援ができていると回答した教職員70%以上	●教育支援部会や生徒支援協議会を通して、支援について共通理解、共通実践を行い、支援体制を強化する。 ●特別支援教育コーディネーターを中心に、積極的に支援会議を実施する。							
○志を高める教育	◎キャリア教育の推進と情報提供の充実	◎夢や目標をもち、その実現に向けて努力している生徒の割合を70%以上にする。	●自己理解を深めさせるとともに、働くことの目的や意義について、教科横断的に取り組む。 ●生徒の望ましい進路実現のため、適切な進路に関する情報を提供する。 ●キャリアパスポートを活用しキャリア教育の充実を図る。							
○小中・地域連携	○小中連携と地域連携の充実	○小中連携や地域連携を図り、生徒の教育活動の充実が図れたと回答する教職員が70%以上にする。	●小中連携会議を実施して、小中連携を推進する。 ●本校の方針を発信するとともに、全教職員が地域との協働の意識を高め、理想的な関係づくりを推進する。							

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--